賀茂社記録

二十二

832
97
305

22

国立国会図書館　　タイトル『賀茂社記録. 第22冊』　請求記号 832-305

ガラス使用

享和元
御造営之
記

832
97
305

22

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第22冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

享和元年四月

一御造営被仰出候若狭国主
御造営ニ付社家之者達ニ
御触書
附札ニ
成業不束之儀
有之候ハヽ
八日

一御造営ニ付諸方注進ニ
つゝ鍋ニ弐ツ宛下男下女迄も
鉢ニ一ツ宛可

十九の齢出来年

一歩人

一今度就御送営御修復等中営地
主森林之内ニ而御造営木植栽棟梁
之家善左方ニ若共ニ馬場表ニ
旬御神事之内ニ而不法之体ニ付注連
之用ニ事若年之小児近寄ニ
ハ不苦ニ候ニ付其小児近寄
ハ不苦ニ候ニ付其小児近寄
ハ不苦ニ候ニ付其小児近寄

万端不法ニ付ての
相勤ニ付、お祓ニ上
一於社頭高声ニ雑談
出ニ当番之面
一当番ニ不限ニ而
小法ニ付ての
ニ而

一鉄砲并網ニ而
堅ニ用ニ事
一諸鳥猟ニ
一宮嶺ニ而
一夜分高声ニ雑談
一馬并ニ
注ニ事

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録．第22冊』　請求記号 832-305
ガラス使用

一二ヶ所拝殿ヶ所幣殿
営繕之事
一酒殿橋ヶ所東門廊
左右門并築掃除之
事
一大小風祭大切之
事
右修造掃除之
事
一年中神事之
次第
一年中祭事
次第
一年中行事
次第
一年中神役
次第
一年中神領
次第
一年中社家
次第
一年中社人
次第
一年中社僧
次第
一年中社領
次第
一年中社寺
次第
一年中社地
次第
一年中社境
次第
一年中社内
次第
一年中社外
次第
一年中社務
次第
一年中社用
次第
一年中社費
次第
一年中社収
次第
一年中社支
次第
一年中社会
次第
一年中社議
次第
一年中社決
次第
一年中社定
次第
一年中社則
次第
一年中社規
次第
一年中社約
次第
一年中社盟
次第
一年中社誓
次第
一年中社祈
次第
一年中社願
次第
一年中社参
次第
一年中社詣
次第
一年中社巡
次第
一年中社廻
次第
一年中社行
次第
一年中社歩
次第
一年中社走
次第
一年中社飛
次第
一年中社翔
次第
一年中社舞
次第
一年中社踊
次第
一年中社歌
次第
一年中社詩
次第
一年中社文
次第
一年中社書
次第
一年中社絵
次第
一年中社彫
次第
一年中社刻
次第
一年中社鋳
次第
一年中社造
次第
一年中社作
次第
一年中社製
次第
一年中社工
次第
一年中社匠
次第
一年中社師
次第
一年中社弟
次第
一年中社子
次第
一年中社孫
次第
一年中社曾
次第
一年中社玄
次第
一年中社昆
次第
一年中社兄
次第
一年中社弟
次第
一年中社姉
次第
一年中社妹
次第
一年中社伯
次第
一年中社叔
次第
一年中社甥
次第
一年中社姪
次第
一年中社従

未送状宣旨度案ニ有リ

美作介 大徒介 岩救守 右馬助 内匠頭
伊勢守 故喬人 阿波権守 左京亮
筑後権守 九ノ

七月八日
一本作姫宣旨使 右大史三善亮壽 副使
右衛門尉 伴敬 使部 岩徒 在京
右衛門尉 伴敬 事書案向ニ
依宣旨 令早下知 諸国 可令
停止 私宅 令宿 宣旨使 并
従者 事
右 太政官符 諸国
応令早停止宣旨使私宅令宿事
右 得左大臣宣偁 奉勅 宣旨使
宜令早停止私宅令宿 若有違
犯者 随状科罪 者 国宜承知
依宣行之 符到奉行
七月八日 左大史 三善亮壽
左少弁 藤原朝臣 資業

一今日宮使来向来作法之事
うるさく世話若役人
一武家御迷惑掛り役人
九日
一当番御供ニ一僕
若役ニ
十日
一沐浴人代出雲ノ
御迷惑仲之如了城営
当ニ
入江勘方共ニ大概
養安水之度承合ニ
お勘ニ心当ニ硯休所
世話共ニ
一見廻り休所ニ
土作ノ事把筑前
往還ノ式ニ
尾張公氏大美作公
推参ニ

ノ人受取ノ大概左ノ通ヲ定メタ

○六月朔十人計茶菓取廻リ終ニ御酒ヲ出ス

右四ツ時僕所ヨリ社司ヲ以テ御通知ニ付

本遠忠小庵場移ル品々ヲ以テ俄ニ御客ノ

出キ休所ヘ休所ヨリ社司ヲ以テ御通知ニ付

案内ニ及ビ先湯殿ヘ通シ先湯殿ヨリ社司ヲ以テ

新二馬場前馬場小庵場ヘ御案内ニ及ビ

又ヲ裏海ヲ御川通リ町岡田町ヲ南ヘ御通リ

岡子中ノ路町ヲ下ノ御供ヲ御送リ

辻又ヲ堺ノ御供ヲ御送リ梅辻岡本町大田前

当路町山本町ヲ御供ヲ以テ

送リ通ル頃ニ相知ラセ

○休所ヨリ僕ヲ度旅宿ヘ

送リ遠山本町角井筒屋ヲ

ヲ以テ桃灯二張ヲ点シ

送ラシム

○送書附ヲ通ル如ク

上ル茂御修復ニ付

御修復ノ所ヨリ小庵場ヘ御

足ヲ止メヲ御用場

奇宿ヘ御修復中ニ付

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第22冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

御用ニ付為名代被差出候
七月
右之通被仰於西御役所
被仰渡候ニ付御届奉申上候
以上
寄宿別
掛町年寄
西浜町家主 藤兵衛
中井蔦之助
味方役金
朝吏金之助
お記印定
羽田年寄
南入浦役
久保田吉兵衛
陸奥権之丞
美濃今家
薩広野家
大隅今家
筑後松家

曲輪年寄
上田吉兵衛
秋川御役所
加納小十郎
生糸改会所詰役
辻 吉兵衛
生糸改会所詰役代
秋谷清右衛門
曲輪年寄
浅野和泉守
〃 平川保之助
秋川御役所詰役
大河原治平次
〃 中川万右衛門
棟梁
山本重右衛門
〃 大東次郎兵衛
〃 今村重次郎
右之者共儀ニ付
今般御役所
被仰渡候ニ付
御届奉申上候
以上

寄宿年寄
家主
人数
就業家
左
重右衛門家
出雲今家

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第22冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

出火洪水之節お訪れ人見

一中井藤之亟殿
　但上右之御礼　寄宿ス

一朝夫金百疋　　　

一番 二八 七八月二六九
土佐介季枉 尾張介氏大
二番 兄 七
越中守延清 義隆介季般 豊後守清静 妻人清志
三番 七十 一六
延て枉ヶ盛宗 義仲介乙乳 蓮介乳 有定忠

四番 一六 二七
肥後権ヶ直一 (八上ヶ宗) 安乳権ヶ庶信 大隅介競乳 信濃介武乳

五番 二七 二八 (八月九ヶ行ヶ陵ヶ文代雑ヶ介ヶ北乳氣)
築後ヶ守保 築介氏延 築介季紀

火号ヶ焼ヶ事
〇延ヶ三ヶ第ヶ火廻りヶ事ヶ安永ヶ三ヶ年ヶ正ヶ月ヶ廿ヶ日ヶ夜ヶ四ヶ時ヶ比ヶ出ヶ火ヶ仕ヶ候ヶ処ヶ風ヶ烈ヶ敷ヶ候ヶ故ヶ近ヶ辺ヶ不ヶ残ヶ焼ヶ失ヶ仕ヶ候ヶ而ヶ已ヶ不ヶ及ヶ力ヶ及ヶ二ヶ十ヶ人ヶ之ヶ内ヶ二ヶ十ヶ人ヶ之ヶ家ヶ焼ヶ失ヶ仕ヶ候ヶ事ヶ
右ヶ之ヶ通ヶ火ヶ事ヶ装ヶ束ヶ仕ヶ候ヶ処ヶ相ヶ違ヶ無ヶ御ヶ座ヶ候ヶ以ヶ上ヶ
延清一巳ヶ二ヶ付ヶ九ヶ拝ヶ処ヶ仕ヶ候ヶ処ヶ二ヶ十ヶ人ヶ之ヶ内ヶ二ヶ十ヶ人ヶ之ヶ家ヶ焼ヶ失ヶ仕ヶ候ヶ事ヶ
右ヶ之ヶ通ヶ火ヶ事ヶ装ヶ束ヶ仕ヶ候ヶ処ヶ相ヶ違ヶ無ヶ御ヶ座ヶ候ヶ以ヶ上ヶ

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第22冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

十一月

一夜四ツ半過出勤並一座氏代成業競弐代延清 不参弐名
着用者之儀仕降笠着しと申渡ス

一當番し社司従今日被仰付候節 第四條
ニ依社司ニ而御手伝代勤本番ニ而ハ
ニ而ハ

一笠着し社司従今日被仰付候節 第四條
ニ依社司ニ而御手伝代勤本番ニ而ハ
ニ而ハ

一夜四ツ半出勤並一座氏代成業競弐代延清 不参弐名
着用者之儀仕降笠着しと申渡ス

十一月

十五日

一 木造始朱刕 被榮秀奉造始行事

木造始行事

當り刻限著供本宮權社來社等外陳之神饌

本宮神饌當番祠官供之權社神饌當番氏人供之於小社布衣社務代供之

到刻限祠官各狩衣陰陽大史衣冠作所奉行狩衣 別當所司代各淨衣等泰集于諢議所

案内三度神人後三度峙于太敲 且後當百 正權大立 長五人各狩衣 權祝 權擽梁

師鍛治等同泰集門前 檜皮師 鍛治等 各淨衣指要立烏帽子

次祠官以下各泰向于社頭自二鳥居入二鳥居

經橋殿西簀子橋玉橋等入樓門中門而著

神前座 福宜方透廊 祝方東渡殿 於作所奉行者祝詞屋

南軒下之座 東南角 西面 且番百以下列立于土

師尾社 鳥 此以前運送材木於祝詞屋前

供儀從二鳥居經玉橋入樓門中門檐居于祝詞屋

前人夫十二人白浪檐之自樓門到祝詞屋前出納素襖三人 褐手於材木

先行而警蹕

次善請奉行著于局座

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第22冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

次陰陽大史行清祓
儀先小頭儲軾於材木前東西
中央了陰陽大史
自當所進出于材木前著西軾二拜手執
大麻立木而行祓了立寄西麻於材木二拜而
起座著東軾行祓同于西儀了於中央行祓了
讀祝詞二拜退下于時青侍一人布衣進撤三
所之大麻退去了小頭撤三所之軾
次正權棟梁當墨金於材木
其儀先長二人持出曲尺墨汁等而置
材木前而退于時正權棟梁進材木之
正中一揖了正棟梁取持墨金而進材木
西木口于時權棟梁同取持之進東木口次
長一人進材木之正中于時正權棟梁當
墨金於材木之木口了出墨汁之糸口
渡于長長以糸口誠之度了渡權棟梁
正棟梁相對而打墨於中央了權棟梁渡
糸口於糸口長長請取之而渡正棟梁於
中央一揖而退次棟梁墨金等如初置中
央而一揖而退于時長二人進撤墨金等
次正大工釿始
其儀先長一人持出鉇立挹于材木之

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第22冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

中央退于時兩棟梁進于材木之中央而
一揖了相分于左右而候于材木之木口
持抱於材木于時正大工進于材木之前
而一揖了取斬而二拜有左右左右了進于
西之木口方斬二度了進東木口方
斬二度了於中央之二拜左右左右如初
了立樋斬於材木之中央而退于時
長一人進撤於斬
次權大工斬始
其儀一如正大工之儀

次擔役師持出屋根形之桧皮葺肩荷置于
材木之中央二拜而退次兩鋸治進于同
中央二拜而退
次賜祿於正大工
其儀別當大夫自直會所持其錄而渡
于氏神社祢宜出自唐戸而請取之於
唐戸前賜之于正大工正大工拜受而退
次賜祿於權大工
其儀一如賜正大工之儀此時氏神
祝賜之

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第22冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

次供外陳之夕神饌如朝
次別當大夫作祈奉行并當直以下著
廳屋於此所賜棟梁以下之禄（烈當作カ）
且神供直相
次祠官以下參向之氏人於局座神供直相
勸盃等之儀了各退散
次撤材木而入置于樓門西廻廊（人夫役之）

十五日
一鍛冶國秀助（任イ）和泉守

十九日
一若狭前司

一今夜廻り成業（ママ）之代知保自弘安
一若狭前司
参ん
来廿二日成弁權殿神宝渡御（ママ）に随意第
沽之者ども
但將供一番兵仗（ママ）之番長
如人淨衣指貫（ママ）先拂
半弁（ママ）第一鞍（ママ）
右之

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第22冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

翌ろ日朝ニ権判神官氏人
退ろ事ニ候哉之
一 九番農ろ米ニ而集冊酒ろ
宿 国府寺方住士作ム事
○御送ニ而ろ米ニ而ろ
右先ろ一年ろ事ニ候ハ
若狭氏安保ニ而ろ
平相撲ニ而ろ
酒ろ集時供ニ仕ろ
年ろ進ニ而ろ

九番ニ而時供ろ事

○時供国府寺方住人ろ事

李垣筋ろ宮内ニ而ろ
時番ニ而ろ当嘗之ニ
ろ先ろ処ニ而ろ

十二月

一 社氏当番ニ而ろ
ニ而ろ代ニ而ろ

一 若狭ろ

○年ニ而ろ権判神官
○六月一日行国社新

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第22冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

○社式南曳辞令従明治廿年集廻り之事

廿五日
一今夜廻了　盛業　氏処

廿六日
一若夜弱ゆえ
　　暁ん

一九月廿九日時成交（柳尾社　杉尾社
　　右御廻之社　川尾社
一十月二日時酉戌（山尾社　若尾社
　　（瑞坊社　梅田社

一十月三日時酉戌　若宮社　梅田社
　　右御廻之社　自頭　交直

若宮神供之儀ハ当家ニ而可相勤之事

十月

廿日
一権殿神宝渡御　酉刻　成業
　　酉刻　盛業
　　随意年番ニ而可相勤事

廿一日
一権殿神宝渡御　酉刻　成業
　　退下之刻　附記神宝渡御之儀ハ年番ニ而可相勤事

廿九日
一小社御廻之儀若輩共ニ而可相勤之

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録．第22冊』　請求記号 832-305
ガラス使用

晦日

一月廿六日若生帰京ニ託シ御書并ニ
御守札ヲ被送候右手大勲之事ニ付名家ヲ
主方ヲ初メ大勲之
自然之秘方有之時ハ
迷惑ニ入候保ヲ以
右右手ニ而之仁ニ
粧等ニ而大勲之
ニ而之御答ニ
迷惑ニ而之御
右馬
周防守
若狭守
丹波守
駿河守
伊勢守
近江守
安芸守
内匠
安芸守
肥前守
筑後守
伊勢守
若狭守
右馬
周防守
筑後

社殿造営勧進

飛筆　日向守　歳年

上賀茂御霊人名簿

大工方　大和屋伝兵衛　寺町九条下ル
　　大和屋吉兵衛　寺町九条下ル
　　大和屋伊兵衛　寺町九条下ル

石方　城州粟村　白石武兵衛
瓦方　北京極下ル　大和屋山之助
飛騨方　新町九条上ル　十二兵衛
亀方　佐久間町　亀師九兵衛

等方　大和屋仁兵衛　寺町高辻上ル
　　大和屋伝兵衛　寺町高辻上ル
　　大和屋伊兵衛　寺町高辻上ル

本秩方　松屋伊兵衛　姉小路東洞院西入ル
屋根方　大和屋山之助　堀川西入ル
　　大和屋清兵衛　堀川西入ル
　　大和屋茂兵衛　堀川西入ル
我来方　大和屋伊兵衛　寺町高辻上ル
　　大和屋吉兵衛　寺町高辻上ル
　　大和屋伊兵衛　寺町高辻上ル

中買方　万屋兵蔵　寺町高辻上ル

瓦方　新町九条上ル　若狭屋安兵衛
　　柳馬場押小路上ル　若狭屋安兵衛
　　柳馬場押小路上ル　若狭屋清兵衛
灘師方　松屋伊兵衛　柳馬場押小路上ル

塗方　日野屋勘兵衛　高倉五条上ル
指物方　佐久間町　石川伝兵衛
　　寺町御池下ル　大和屋伝兵衛
　　佐久間町　大和屋山之助
　　佐久間町　大和屋伝兵衛

畳方　井筒屋伝兵衛　柳馬場御池下ル
　　河内屋茂兵衛　河内屋善兵衛
紙障子方　美濃屋七兵衛　石薬師東洞院東入ル
　　美濃屋善兵衛　石薬師東洞院東入ル
　　美濃屋伝兵衛　石薬師東洞院東入ル
錺方　菊屋善兵衛　三条東洞院東入ル
　　菊屋伝兵衛　三条東洞院東入ル
　　菊屋清兵衛　三条東洞院東入ル
仕事場　堺屋茂兵衛　新町五条下ル
　　堺屋善兵衛　新町五条下ル
　　堺屋伝兵衛　新町五条下ル

小買物方　本屋吉兵衛　寺町五条上ル
　　本屋善兵衛　寺町五条上ル
　　本屋伝兵衛　寺町五条上ル
翌屋方　佐久間町　竹屋武兵衛
假屋方　堀川通紙屋川下ル　大和屋山之助
　　大和屋伝兵衛　堀川通紙屋川下ル

一今夜ニ而り成就　五ツ代　知保
　　自ツ代　清志
　　五ツ代　庚佐

六月一日

一 俳述之 件國社成 新之 隨之来信
件國社之時之為取扱向宮之 着衣寝浴衣迄之 ニ而之 ニ
新之社之時之御門内ニ 寝所仕之事早之 御酒
献供之 庭座仕之夜膳供六番 元任屬並之 裏ニ
之 ニ而 代座信 明後日之迄之
金和金弐朱 従六番 元 代ニ而 ニ

二ヶ

一 小社迄之 詰番 ニ

三ヶ

一 若役 御浄衣之 明ケ之 ニ 来年 ニ

評議所 袴着用之 信之 其内之 出之 明夜 小経所
支拂 重神之 神前之 成并ニ 支拂 御供八当元
俳述之 若宮俳迄之

一 俳述之 若宮社并ニ 小社 詰番 ニ

四日

浄衣之 一 浄衣 為信之 ニ 之 注進所、来ル 御送 ニ 繰り
形之 任保 鹿 越 為任為 之 詰番 之 支度 浄衣 御膳
成し 為帽子 指貫 来候 ニ 退之 ニ 乳
ト 成 榮 拝 歌 任 ニ 候 ニ 大 変 ニ 而、 ニ 事 ニ
附記 御具 之 ニ 浄衣 ニ 入 ニ 乳
之事 書 ニ 之 ニ 先浄衣 計 ニ 候 也 風 説

道法後之 一 道法後之 俳 御 拝 社 申 社 ニ 傳 取 記 之 乳
口 俳 許 之 上 賀 義 之 乳 寺 事 役

但下駄ヲ上ゲ候ハヽ
〇上ゲ候ハヽ貴方ヘ御返
〇下駄ヲ上ゲ候ハヽ廻リ
〇下駄御預ケ候ハヽ
〇下駄ヲ差候ハヽ
〇上ゲ候ハヽ貴方ヘ御預ケ廻リ
〇下駄御預ケ候ハヽ廻リ

九百丁程
九拾里程ヲ乗
九百里程
六里程
九百里程
九八里
九七里ヲ乗

迷宮ヲ廻リ仕候人ヲ送ル事

一迷宮ヲ廻リ候ヲ待受ケ候人ヲ送ル事

右

一迷宮ヲ廻リ候ヲ待受ケ候人ヲ送ル事

右

八日

一五番院仕候ヲ送ル事

一四番ヘ転ジ候ヲ待受ケ候ヲ送ル事

安養院ヲ発ス

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第22冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

並来之如此能事之若国儀
権長の勅あつて来る廿七日
より進上仕候事并人数
左衛門尉始能代しの勅雑役
能仕候事
例の如勅使下向
也然る処退しの去秋仕候
此事今度有て為申
本宮能遷宮正遷宮等記し
のごとくに差支
の旨にて他の学会延

○時供料并集米之儀
つり當る九月中旬
出来九番能いつれ
四五度
當日出来に付事
一若宮能

能遷宮日時

一山森社　時雨戌
六月十五日庚申
一流鏑馬社　神宮寺鎮守社　聖神寺鎮守社
同十六日辛酉　時雨戌

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第22冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

一大田社 白髪社 鎮守社 石大夫社
同 九月乙丑 時成奏
一大宗良社 福徳社
同 九二日 丁卯
一沢田社 氏神社
同 九二日 戊辰 時雨成
右之通依定例奉幣之者
一大田社并小社 将代十番 同 九二日 庚午 時雨成
来九十四日奉幣之者
一奉宮社并小社 将代二番 同 九二日 辛未
来九十六日奉幣之者

一沢田社 氏神社 将代二番 同 九二日 辛未
来九十七日奉幣之者

六月
廿四日

九日 宮田出逢り 新送り 水雑子 前
但百姓壱人二男子供之者 入二男子供之者
宮御年を一年先の入二男子供之者 おを 沙汰を 奉宮殿掛の 御
御当屋前へ出逢 出逢年死め 奉幣

十二日 若宮御祭礼
来九十七日 奉幣
中之間彼地引越 端作場所

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第22冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

賀茂社外迄穴

十五日 山城社使迄雨お訪
十六日 若狭前司
　　兵
　　社使御迄啓事お訪
六月十六日
　　社中

奈良文化財研究所

自己刻未刻迄雨お訪
松前啓事お披
勿論於義被奉
別紙
但如陸奥守
二月十六日

一古米四石 若狭前司
出雲 若狭 美作 美濃 各代
附記流鏑馬事 来廿五日
来廿日雨天 延引
来廿日雨天 延引
急附 史生 引屋
依 先年 集 配

一七日 粥を炊て四方拝一座 頭屋 祝宮 武義 季拵

一小社例年之通 宮司 祢宜 祝部 参詣

十七日 午刻より例の通 若殿 祢宜 祝部 社人 白丁 馬帽子 未着 指貫 狩衣 着用 社参 一献 饗 社頭 にて 武義 手作 酒 肴 にて 饗応 〇 社頭 にて 御供 進 献 古来 通 拝 礼 畢 〇 御供 進 献 畢 て 若殿 御 帰 館 〇 御供 進 献 畢 て 社人 一 同 拝 礼 畢 て 社人 一 同 退 出 〇 社頭 にて 饗 応

社記當帝二年扶
権祝氏代代國祝出羽
之社務為家 又某保春 義仁王寛弘 宣雲享 氏紹
石 和重享 氏世

一 古来和歌書之左
御供備之 楯 かゝる
号 左之備方將時従事名和氏 如
之場 多侍 於
此 のみて
御社司左之備方 屋体或 備進
之 之 備
之
御造営 載

一日供奉進 献太田社祝迎 之
小社 建 兵祖 建中 造営 之
於 新殿 建 御備 之 兵 氏祖 勤 代
保春 知 新殿 建 保春 氏祖 勤 之
保春 生所 知 新殿 建 保春
知 新殿 建 保春 氏祖 勤 之
保春 知 新殿 建 保春 氏祖 勤 之
保春 知 新殿 建 保春 氏祖 勤 之
保春

貴布祢権殿神官賀陵卿　時申

一同日　時成亥

同日吉社領事社吸菊社於事社

右四社假遷之　時雨亥子

一同廿七ヶ

同牛一社八尾社　宮社梅宮社

権殿社　右五社

一右之通社殺法定之旨被達候事

一將供廿六ヶ之事　當月廿六ヶ之事

牛刻迄ニ北山ヶ之事　北山ヶ之事

北二ノ　ヶ廿七ヶ之事

十ヶ条ヶ之事

○右　福徳社假遷宮人

一大宮社　福徳社假遷宮

大国主神人　當社假遷宮

一諸司代并地備事　殺閑東假宮事

出之事　御殿并仮御所九ヶ所

一差役免事

歩ん

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第22冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

出来物ニ而
一當ノ少社御備ニ而
賀茂ノ社家ニ而
百
六月ノ六日
御神事迄ニ
一御用ノ兵部ノ修理迄ニ
百俵ニ致ス筈ニ而
左七ノ古指度那ニ而ハ義ヲ
ニ人ニ十石ノ割ニ
一能ノ物ニ而
左様ニ
一貴布禰ノ社領ノ
千石ニ
一能ノ場別而ノ
千葉ニ宅仕ニ
一能ノ安ノ宿ニ
薄紙ニ
九ノ能ニ
保徳ノ
〇七ノ
七月一ノ能ノ
三ノ若狭ノ
唯ノ
神ニ

八ノ

能場別而ノ御ノ
千葉ニ宅仕ニ
一能ノ安ノ宿ニ
薄紙ニ
九ノ能ニ
保徳ノ
〇七ノ
七月一ノ能ノ
三ノ若狭ノ
唯ノ
神ニ

五日　減金方針如ち冊附ち
減金方針如ち
前分二十人筆紙ち
なお和泉師匠ち
武辺仕人ち
六ち　明七ち御神事ち
ち御神事ち
七ち　古屋拵ち
十ち　七ち
山武辺仕人ち
御神楽ち

十六ち　浅ち四ち
一昨ち
一若仕ち
権殿主
同上棟
右ち
仰ち
廿七月
一去九月七日権殿神宝
権殿神宝
洋殿着坊ち

一今日午刻ゟ五宮并轉供之民人従一當衆
各ゟ之式笠着于玉垣屋到五番衆
一刻限以前備進本宮権殿并摂社外陳之
神饌當當祠官掌社者當當之民人役之
一刻限以前假殿設忌子屋五宮之輩參向之事
一刻限以前假陽変後清於假殿神酒備進事
一到刻限五宮并轉供之民人出仕于社頭五宮着着
透廊ゟ座轉供者着西御供所座外參役祠官
着権殿西渡殿ゟ着座隨意參詣者直會所群居
此以前自権殿前ゟ至假殿ゟ白幕幔幕 内白幕四重
外幔幕一重

自権殿假殿迄路頭間敷設於筵道布單
但布者一幅也所葉捻葉仍役之
次預大夫渡假殿之御鍵ヲ祝
次祝宮假殿之御戸ヲ開着本座
次預大夫渡権殿御鍵祝祝開権殿之御戸御鍵
次神主起座手水所司大夫手水ヲ取役之
次祢宜権祢宜起座入権殿之内陳
次參仕之祠官并轉供各進候階上下 着布狩衣
権殿大床 着布狩衣
假殿大床 着布狩衣
權殿階級同 着布狩衣
假殿階二級同 着布狩衣

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第22冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

権殿階五級月 奉元祝 仄田神管
轉供畢着二人廊下下腦二人者庭上 一廣元 麥 和代 門祝
次巻御幣廉神主 供之 二廣元 民部 享祚
次神寶渡御 御幣盤二脚 是西御供祈 撤ク
幸櫃二合小幸櫃一合御太刀 御鉾一本御弓
御矢生絹御幣二棒御靴子 御羽箒
御帳御壁代
右渡御畢而奏仕祠官并轉供之輩復座
次神主祢宜権祢宜権祝出内陳復座

次祝出内陳閉殿戸 供奉 御戸了復座
次肝煎惣奉行撤饌道布畢等 右之外
御濱床以下祠官一統轉供悉唐櫃内撤置
次祝進権殿閉御戸
次権祢宜備進神酒 本宮 元岡社者當番氏人
次権殿外陣之御幣盤 備進之
之輩役之
但狛犬者渡御以前肝煎中被居置
次祠官并轉供等退下於直會所祠官轉供
并陪膳奉詣之輩等神酒直會

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第22冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

十五日着之若狭国ニ川上
の水上ヨリ退付蟻の沈候ハ
左ヨリ子ノ刻ニ死ヌル事
ハ翌十六日夜候ヘシ
十六日ヨリ教ニ而ヲ養仕今着
十七日ヨリ禁庭陳儀ヲ別ヲシ
陰陽寮
擇申野御祖社正殿ヲ指日時
今月九月十八日壬寅
同社上棟日時
九月廿日乙未
時巳

享和元年七月十七日大允賀茂朝保雅
助兼近守賀茂朝保敬
刑部権輔兼暦博士賀茂朝保高
陰陽寮
擇申賀茂別雷社假殿立柱日時
今月十九日癸巳
同上棟日時
八月七日己巳
時辰

享和元年七月十七日大允賀茂朝保雅
助兼近等賀茂朝保敬

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第22冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

権祝奏

一権祝之処奉仕場奏之事

権祝之処重宣之事

一宣旨使来向申斗之事

宣旨使　左少史一人

副使　左衛府一人

使部　大隅国之

十九日　丁丑　晴

卯大史之記之事應定被行

権祝奏

先例御料次之祝次々御料之事

御備物奏之記仰付事

當番等任意参籠之事

一若仔鍋始之

中川之橋明ケ方ヨリ御葬送相撰申神幸
通リ幸新文御門日供御門奉ラ
ニテ後ニ本門ニ楊枝ヲ献ル事
七月十九日 社中
祇園祭礼
一井大炊頭祇園会ノ時ヲ
休死牧死御奉幣
北ニテ若役ノ来ル新ニ
御送葬ノ事法ニ依テ
鬱蒸ノ雲霧ヲ
先触ノ事ヲ

六月七日 季栂 自殿 支奉 経必
六七日若役ノ事ヲ
来向ノ事ヲ
八ノ宮ノ事ヲ
新宮大因ノ
名張ノ
第今度
二神宮ノ事ヲ
三事ヲ
貴布禰社之注上
社司ヲ
貴布禰社ニテ
宮古使年向
社司ヲ
宣夜

手洗水
拍手 再拝 祝詞奏 訖而 禰宜以下 拝 如初 但右少史以下 依例 拝 畢而 各退

次 奉幣祢社 宣旨使 參向 畢而

當日供外 陳之 朝神饌如常

到剋限前 祠官以下 諸仕人 參向于社頭 猶縁

剋限宣旨使 參向 入鳥居 立于時 陰陽寮

後使之身躰 乍參向于神前 祢宜之身躰

次使入鳥居 経橋殿西 簀子橋 上 岡之 渡殿

等 進立于新宮之北 軒下

次祢宜 出自唐門 進立于使前

次使相渡 宣旨於祢宜 祢宜 謹而 取之 渡祠司大夫

祠司大夫 請棒 覧 答前行

次一揖 祢宜 答揖 乍進神前

次祢宜 奥ニ 北ニ 拝 (社宜於陸下宮方ニ西ヨリ東ニ進ミ東陸降テ備神覧)

次祢宜 備 宣旨於神覧 (勅設御盤於大床 新宮ハ准此之大床ニ)

了 撤宣旨 渡祠司大夫 ここに 請取之 退于唐門

猶予

次祢宜 降自神前 進于使前 一揖 使答揖 乍

祢宜 退于唐門

次神主 進于使前 對揖 次 正祢宜以下 揖

次使 退下於廳屋 有警禄之儀 了 退下

次祠官并忝詣氏人於同座俾見宣旨了各退
（右ヲ以テ御饌ノ儀奏ス）
次供外陳之々御饌
使掛右廿史高橋時春
使部
神主下同殳定新宮殿之東同座坐西面
其後陪忝氏人詣之座長床
○所司大夫捧持宣旨於階下称宣渡之後覧答所司大夫使部ニ授ク
唐門内ニ入弟社覧答携門下猶豫稼穡宣旨撤時進ミ出テ覧答退
入唐門ニ入
△於西御供所神主始陪忝氏人等ニ宣旨ヲ伝ヘ覧ル事ヲ
次朝夕神饌神酒之献事本年ヨリ退下
宣旨ヲ要文ハ書布狩衣
副使青柴右衛門尉宗岡行敬
中門下標石ヲ成ス
一棚尾荷箱并標并中門之下等ヲ奥白川切石ニ
一若狭今年御山入札并月日之事ハ
屋形殿明ノ廣下配分之事ハ
右ノ七ヶ条ハ本年屋形殿配分
八月若狭今年札ニ無之別ニ貴布狩奥ニ附引
同年別ニ指定忝氏人ノ狩衣之事

八月四日戊申　時午
同　上棟
八月七日辛未　時未

貴命ニ而奥江附川之社

四日　今晩亜別貴船奥社附川手拝

主社ニ而気色悪敷ニ付、後傳寺附川ニ而

六ツ半ニ而ニ而ニ而各亜来ル代備中義作今ニ

七ツ半ニ而ニ而年町人百姓等カニ而ニ而

○惣ニ而ニ而ニ而綱すきニ而ニ而ニ而

来ル廿日ニ而ニ而ニ而

十四日 甘露寺大納言殿 御参内 御供 右馬権頭 藤原氏 従五位下 平朝臣 氏定

一 去十二日 御使 右馬権頭 藤原氏 従五位下 平朝臣 氏定 参向 御使 右馬権頭 藤原氏 従五位下 平朝臣 氏定

十六日 壬生官務大史 敬義 卒去 年八十 右官務代勤 安永御免 後右大史 敬義入 依 卒去 亮時父 右大史 信古 勤 代勤 崇敬 之 依 卒去 亮時 代勤 如 又 敬義 卒去 御送葬 惣代勤 不思議 事

一 去十六日 故 紫美 参向 依 卒去 御使 薩摩守 藤原氏 従五位下 平朝臣 氏定

十七日 社家 当番 二当ル 祠官 信濃 権掌 祝 二当ル 応 年例 参向 美作介 五位 ヲ 素絹 ヲ 着 ス

一 法華寺 卒去 御葬法 年例 別伝 如 清簾 立 清畳 ヲ 敷 御葬送 ノ 御祓 依 例 陸奥 守 藤原氏 従五位下 平朝臣 氏定 参向

一 手水 ノ 間 ニ 悔 書付 ヲ 取 テ 持参 ス 相当 ノ 御悔 申述 ル 事

別雷皇太神宮 廉前

享和元年八月十七日　社頭當番

一　右之通御法式之通相勤申候事

一　證書一巻奉納仕候事

一　手伝之方々名前書出候事

御寶殿外之末社之内御修理之儀ハ御後日ニ

又出ル心得

右之通ニ候

御造営掛

一　右之通御供所ニ而御膳部相調候事

十八日若狭介清矢守雅之減亡ニ而一汁壱菜ニ而精進仕候事

十人之会従明日之通勤申候事

一　右之通御供所ニ而御膳部相調候事

一　右之通御供所ニ而御膳部相調候事

一　右之通御供所ニ而御膳部相調

[illegible]
[illegible]
[illegible]

同廿七日別当参向奥社御正拝之義
ニ候ニ付而ハ若殿ニ而ハ御代参之例ニ候
十二月廿日御法楽和歌并詩歌御
催ニ而御奉行ニ御用人被仰付候
光入候間御用人御同道ニ而
ニ而ハ中々御間ニ合兼候ニ付
体新年若ハ来ル廿五日頃ニ
延引ニ而ハ如何ニ付御用人
ニ而ハ御当日ニ
ニ而ハ御代参

発送第四十九号ニ
焉帽子一ツ

孝敬之義御送之事
頃戴度別而御懇意
御紀要永頃戴ニ而
指出候筈ニ候間
度ニ撰り差揮ニ
内ニ入御掛合
之義ニ及候ニ
無之候

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第22冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

[illegible]
[illegible]
[illegible]

大和分配係伝野等差配表ヲ以テ
方引向ヲ以テ番組一覧ヲ定メ
滅ヲ方引番組

一番　六乙　十乙壱番　相撲介　二一
十乙壱九番　民部介

二一　七乙二番　伊平介　八乙　一番　周防介
　　三乙七番　美作守　四一　三乙二番　能登守
　　三乙壱番　善右衛門尉　六乙六番　左馬助介
　　　　　　　　　　　　　下総介

丸一　九乙四番　内匠頭守　四一　三乙八番　常陸介
　　九乙九番　因幡権守　紀伊介

九日権殿方滅ヲ定ムルモ休ミ入リ
廿日ニ年ニ年ヲ以テ依テ代和歌ヲ
十一日滅ヲ番組注進ヲ奉ル返番ヲ
洋ヲ舟ヲ定ム年ヲ仕ル年滅ヲ
十二日滅ヲ番ヲ文代和ヲヲ
十八日若年ヲ
覚
一年十一日　宣旨
一門　大夫
一日　大夫

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第22冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

一十月一日　　本宮立柏時已
一日　九五ノ　　同上株時已
右之通社僧出仕
但本宮役送之事
為禊供明九ノ日
給之上
九月九日
○五番元ノ末社之事
ヲ訴ヘ本宮仰送之禊
至ル庭儀ニ而一ノ勤如
美作今至ル

御内陳神室　御ヲ矢御扉風洞進之儀従前ノ
従前ノ専之儀ニ津ニ急キ九ノ末社ノ
義掛ル庭儀ニ而義相ノ
右ハ当人ノ川義ハ川ノ九ノ
ハ仕今事義違ノ無ノ義ニ
十九日滅宮満ノ勤ノ宣ノ仮
九一日宣ノ仮ノ向仮村岡右
御供所ニ而ハ山名右史代由
○従ノ訴ニ而庭有之
九ノ日　若仮ノ年ハ御勤庭
ノ仮ノ向ノ義ハ

社務神室陳之儀ニ付別紙申訴之向ノ仮ノ末ノ義ハ申訴之ノ

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第22冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

貴布祢瑞社外辻宮
○貴布祢瑞社ノ外辻宮ハ
本宮俗ニ辻宮ト
十五日ノ晴ヲ表ス別
本宮上棟
十五日
本宮立柱ニ別
十五日
本宮立柱ニ別
十月朔日
十九日ノ明朝闕礼来ル
廿五日ニ若宮
御祝宴中ニ
御神楽ヲ奏ス若宮ノ
本宮上棟
○本宮上棟ニ別
御祭ニ於御幣殿神供
俵白米御酒ニ奏本殿ニ
山風ヲ奏ス(秀頼卿ノ
大外記ヲ行ハル事ニ
痛ミ不参ニ依テ辻宮
本宮俗ニ辻宮ト
十五日ノ晴ヲ表ス別
高下并ニ依人退ク記ス
一番衆 肥前主殿
二番ニ 右兵衛秋保
三番ニ 民部孝経
四番ニ 土佐介
五番ニ 石見介
六番ニ 雅楽允
七番ニ 豊後守
八番ニ 下総守
九番ニ 上野庄清
十番ニ 雅楽伯保
(仕丁ノ衣裳ノ事)
(仕丁ノ衣裳ノ事)
(仕丁ノ衣裳ノ事)
(仕丁ノ衣裳ノ事)
(仕丁ノ衣裳ノ事)
(仕丁ノ衣裳ノ事)
(仕丁ノ衣裳ノ事)
(仕丁ノ衣裳ノ事)
(仕丁ノ衣裳ノ事)
(仕丁ノ衣裳ノ事)

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第22冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

一祇園社御神輿御渡之節御押を休し
　　三近宮と云宮元惟代ちがう
　　九ノ宮遷宮之節御渡御中九ノ宮と云ふ
　　御渡御之節御法花中九ノ宮と云ふ
　　御渡御之節御神輿を警固之
　　御旅所に於て御神輿を権殿
　　へ遷し奉り候迄之間
一洋服之者共御例
　　賞覚
一御内陳御神供窪坊九盤之事
　　一二之幸掟之上に於て
一権殿外体御警固二御雑色
　　神供備進之役メ勿論備進之事
一祝詞之儀御例之通於御
　　旅所奏之事
　　以上
　　　酉
　　十一月
○曲淵甲斐守殿明ノ内見分
　　之為御出張之節大田垣伝兵衛
○新諸司代土井大炊頭利厚殿
　　御在職之節内談（ないだん）

○牡鹿備荒忠勤ノ者共ヘ
土井左上糸ヲ下ケ八ノ
後達ノ
事ノ本達如ク後任ヘ
十日保証物ヲ
倚附ノ
諸役人ヘ引渡ノ
○御達ノ
郡宰并ニ
制札修理ノ
旨布告ノ
井垣ノ
○一二ノ鳥居左右井垣元ノ
○制札ヲ

御籍屋ノ
御籍屋許下海ノ蓋板
ヲ
屋色ノ
ル
正遷宮
ヲ
○減免ノ
十一月朔ノ
○鳥居建立ノ

先ノ通リ
と
あるノ
ヲ
ヲ
ヲ

武家役人中、撰ハ雑書ヲ大僕ヲ引渡ス
ヨリ御届ケ申ス筈ニ候ヘ共、一ノ僕ヲ先ニ立テ二ノ僕ヲ大僕ヲ
御送使ノ事
二日御送使ノ儀ハ、今日ヨリ石原孫之丞大僕代
吟味ノ上、進達申ス筈ニ候ヘ共、明日ノ
出発ニ付、取急ギ差出ス、尤モ役人ノ
内ニ而、切紙ヲ以テ、何ヨリ何迄ト申
ス事ニ候、其節ハ、御使ノ者ヘ、其
ノ旨ヲ申聞ス筈ニ候、
（以下略ス）

京都ヘ上ル中
附記 道筋ヲ附切ヲ以テ
○若役弱ノ儀
一当社本社神殿ヲ
皆ヨリ其神ヘ、引渡ス
四役人中帰京ヲ
仕御神宝之儀ヲ
ヨリ御役ヲ以テ
ヨリ已来ヲ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

桐模社遷宮　○奏事

○傳奏神宮本宮ヨリ大方兼テ
遷宮ノ節ヨリ北ヘ雜舎ヲ十二月ヲ
十七日ニ移ス心得ニテ
本宮ヨリ末社神
力傳ヘ
神宮ヨリ錺
社ヘ
太傳ヘ以書面ヲ
十八日若狹ヘ
神宮ニ
本宮正遷宮
件岡社遷宮
貴布禰社遷宮
右日時定作成其
東向ニ而拜禮ス
正遷宮ニ限ル事
本宮遷宮
件岡社遷宮
貴布禰社正遷宮

覽

本宮正遷宮
件岡社遷宮
貴布禰社遷宮
右日時定作成同日宣
東向ニ而拜禮ス
正遷宮ニ限ル事
本宮遷宮
件岡社遷宮
貴布禰社正遷宮

七月六日廻
来月廿四日廻
来月廿四日廻

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第22冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

右之通仰渡候事

一来ル廿日宮司俊宗向正迁宮之儀
御達之事

一十ノ日中將代名前明十九日出府
御届事

十九日 沖法人的氣分事

廿六日 御達之事 来ル廿二日正迁宮之儀
正迁宮奉務 ニ付 文代之名前廿二日晩
御届事

右 詞書物代渡之事

新宮西之方仕切 十ノ日轉代十人那珂郡
出作分事 拙

廿一日 一社正迁之日時
正後 西鹿右大史 高美
副役之事 右廿一日 御
本宮 宮守於拂殿
行岡社 宮守於拂殿
奉務社 宮守於新宮
次第 庭燎之儀 於
御所 庭上

民部 大澤源之進

[illegible]
宮寺法師供神供
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一統門ニ於灯ヲ掛出ス事

一本宮ニ近キ家ニ而忌言ヲ唱ル者ハ其家ヲ過ル事

一当国ニ於心ニ不火ヲ用ル事

一近国ニ家和ヲ求メ来ル者ハ其後ニ至迄

招キ入レ申間敷候ヘ共ニ而ハ不叶用事ニ而

御出ノ時ハ

其ヲ以本宮ニ近キ所ニ而

近隣ニ触知セ事

右条々一社ノ公界ニ於テ

御出ノ時ハ

其ヲ以本宮ニ近キ所ニ而

近隣ニ触知セ事

右条々一社ノ公界ニ於テ

出仕必定ニ有之ニ付而ハ

十一月

十四日 雨

一源時参候ニ付而ハ

御遷宮ニ付而ハ

御神事ニ付而ハ

社中

筑後介拝任之勅使并供奉人等
来ル十七日ヨリ廿五日迄ニ参向
祠官氏人等従来ノ通リ
勅使ノ宅ニ参上ノ事
○白丁三人ヲ第一ノ鳥居ヨリ
勅使ノ第一ノ宅ニ掃除ノ事
勅使第一ノ宅ヨリ
○差役人ノ事
第一ノ本宮正遷宮

一番太鼓ノ事
勅使ノ宅ヨリ
出張ノ事
二番太鼓ノ事
刀祢并ニ差役人ノ
三番太鼓ノ事
神主ノ宅ヨリ
不参ノ事
但シ病気ノ
この条ノ事

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第22冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

右之通十七日申入候事

十一月　　社中

一京都之飛脚毎月二度宛参候処、前々者御先達之飛脚参候而、十七日ニ参候ハヽ、其節ニ参候事

一御祓箱前々ハ十人ニて持参候処、此度ハ拾弐人ニて持参候ニ付、其内ニ而も弐人ハ御祓箱ニ而も無之候ハヽ、御祓箱ニ而も無之候ハヽ、御祓箱ニ而も無之候ハヽ、

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録．第22冊』　請求記号 832-305
ガラス使用

一 社領之儀、上卿ヲ以下公家人衆ニ至迄、
等差遣之有来候処、
従今以後、
堂社奉行ヲ以差遣之儀、不苦候事、

一 寺領諸山末寺之儀、
従来之通、
寺社奉行保博・保伸ヲ以別紙
之通可申渡事、

一 近衛少将消光之事、
従来之通、
諸大夫ヲ以届之儀ニ候事、

横川外并二鳥居内之儀、
従来之通、
寺社奉行ヲ以可申渡事、

一 評定之輩ハ、
割前銭ヲ以出会可致事、

一 等指掛り、
藏会之儀、
従来之通、
寺社奉行ヲ以伺出事、

○評定衆ヲ以申渡之覚

本宮正遷宮当日手配之割 十月九六日 時雨

保博
保伸

右之両人、
第神前ヨリ迎来ル之節、
供制度儀、
勅使御進之後ヨリ奥ハ日供門

之外築地之西ニ籏立高張ヲ以テ正ノ刻ヨリ
神人集會之内ニテ神樂ヲ奏シ後遷御ヨリ
日落神人夜籠之外警衛門生等
つゝしむ事

一 遷御ヨリ神宝納之時御劔ヲ轉供榛
出之次第見濫つゝしむ事

一 執役御退出之上警衛物四合先社ニ集
楯共ニ撤収諸司ニ返遣事

一 於東西日供一膳ヲ備ヘ樽樂人中ニ
遣事

右申刻頃ヨリ被仰付之奥警衛撤之楯ニテ入集張場
察ニ候ヘ共無之候ニ付便所ニ而之儀ニ候事

一 神輿路次ニ而渡差遣御後神宝ヲ幕撤方
共ニ且楯外察布單鎖リ金棒渡方
上卿遷御後御洗ヲ無清浄ニ而取扱
見濫差遣御前社邊奥否ニ而ハ不達ヨリ
一 神前神供ヲ御戸納時傳奏御ヲ以テ
注進之事ニ候ヘ共雑掌中ニ、ニテ入事

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第22冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

右忌之屋燭壱ツ設楼門松下壱ツ之
鳥居之処焼篝焼灯弐ツ拝殿橋之社川過
二ツ鳥居を西二ヶ所ニ而御開十楽門と
称灯木案燭壱焼刻限一鳥居ゟ神前ゟ
迄御手洗川石臭ゟ素襖
少人ゟ伴れ社ニ事
一壱焼灯ニ事十楽門ニ張酒殿橋ニ張
外新東ゟ見附ニ張同角ニ張川原橋

應壱季宛
多季

前後ニ六張湯屋第ニ張之前ニ張弐ツ
并深沢所門ニ壱張焼之事
御理方ニ而ゟ付事

一松ニ事ゟ付迄御手洗ゟ渡ニ而焼事
一簡ニヶ所橋殿川端ニ而松ニ事素襖
ニ人ニ鳥居西南ニ而ツ人吏ニ人素襖
一忌ニ而燭壱ツ灯ニ而ゟ調事
一楼門ゟ忌ニ而燭壱ツ石橋之下ニ而灯ニ張ニ而ゟ
在氏
亢顕

一未刻比次第申刻ニ及ハ
ゝ次第ニ依テ
一申刻比 勅使以下諸司
儀相調 宸儀不
出 御ニ而 勅使
此時供物
別ニ
次勅使
宣旨使
次賛拝
斗布
但外供進発
次第
次勅使
次御酒
次雅楽

休所方ニ武共音物ヲ
進ラレ候
次勅使ヨリ御退出ノ
ヲ知ラセ送使人松明
勅使六人雑次官ニ
送ラレ候ヲ馬形ヨリ
一評議ニ而昭湯屋出ル
ラレ松明ヲ雑事
保永　的顕
資順　寿氏

一評議ニ而法式ヲ
一社ヨリ出ル万事ヲ
一御所司役人ヲ
右役人ヲ
音物ヲ
一勅使御進前ニ
楼門ヨリ
火ヲ消ス事又ハ
要忠　廣朝
辰顕

方へ案内之事御届出し後延引し薬肉
已後不申者

一町廻役人死去之方
右役人存生中為焼香
休所并寺迄御送
有之事為手会
出頭有之候事

一御奉行所御勘考人
休所、御入御休所
体所并寺迄御送
出頭有之候事

良俊 廣伊 氏延

寮二在之寮外地更使之節
勅使御案内御前へ出案
一両局宿地之人休所
出案之事物数有之
別紙帳面ニ
調宮中ニ有

一刻限ニ而役勤延案
未一要慎之有之事

一本宮内餝之事
御帳臺御奥於
一按社内分休所并休

於御供米
一御誓清方駅
以上
人 經覺報

正遷宮別記有之乱世歟之
社家京勤交名

神主 業久
正祢宜保麗
權祢宜是久
氏岡祢宜信平
貴森祢宜持久

正祝 重殖
権祝 保吉
氏岡祝 祿久
貴森祝 懿久

新宮祝　経為
大田祢宜　経康
若宮祢宜　和保
奈良祢宜　氏樹
沢田祢宜　満氏
氏神祢宜　要清

新宮祝　乗俊
大田祝　清之
若宮祝　清高
奈良祝　勇保
沢田祝　桓季
氏神祝　數顕

轉供

一番衆　越後権守恭顕
二番衆　彈正同清
三番衆　石見守秋保
四番衆　相摸権等運清
五番衆　土佐介季桓
六番衆　大和経庸
七番衆　豊後権守右顕
八番衆　周防治顕
九番衆　伊勢権等重尚
十番衆　阿波権等季文

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第22冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

精進殿

一番　正四位下　畢叉季侯
二番　從四位下　守一在俊
三番　正五位下　加賀介武直
四番　兵衛佐　要人清中
五番　兵衛尉　翁權守保仲
頭り　正四位下　阿波守経資　直服代保欣、

大外記　宿禰
史　小内記　休所
史生　宿禰

門外漢有書存

一　近衛司之大将一被兼候ハヽ、依武家代本官ハ被辞退候ハヽ、依部之上ハ、仲ら
一　新、菁洞之於ハ、仲ら

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第22冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

○燭状如左

安永御造営之節営繕掛被
准被仰候時ニ官位申文當
来列ニ而奉願之筆勢ニ
掌状ニ
就御造営掛時ニ官位
加級御奉公ニ而
右之通被成
准今小折紙ニ
宮下ニ而

十二月十三日

十六日就御造営掛時ニ官位申上
宮下ニ而

社中

任若狭守 橘磨擢尊壽顕 任淡路守 丹波擢守孝顕
任備勢今 義作擢今直右 叙正五位下 叙従五位上
叙従五位下 平保 従五位下於顕
叙従五位下 昌直 十五歳

○正廷当日時ニ被治定之節
奉和之旨之通被
この旨之 御心ニ而夕被奉

一例之趣を以来洛の有之事

十二月

○九番院博供之仁、第一番ニ第二番ニ之
　約之

廿七日御送状之通申遣注申
　時和仁宮ニ而御祈禱可申旨
　御諚ニ付罷出候而祈念百ヶ日満
　御諚重封書ニ而祈念口割を忍百ヶ日
　ニ達し（附記）滅金方ニ而金堂ニ而
　傳開

廿八日於義作金堂ニ九番院之
　後傳開就御送状御祈禱
　御諚重封書ニ而祈念口割を忍百ヶ日
　ニ達し（附記）滅金方ニ而金堂ニ而
　傳開

○轉供之仁集第之分

元年七年
　内ノ年　　院慶法印ニ而
　　土佐公事相
享二年　　国行当労往

享和二壬戌年正月

一古於本徳指弐人宮寺御供等ニ御逢ニ御祓
　差遣ス事

一御祓初ニ而ニ御祓差上ル事

一右祓弐人ニ別ニ初穂弐人ニ而ニ
　神供供料ニ而離用ニ而ニ
　騨ニ而ニ御ニ初穂弐人ニ而ニ
　新造用意ニ而ニ役谷頂戴ニ而ニ
　但若役ニ而ニ初穂ニ而ニ

御祓初ニ而ニ御祓差上ル事

一古神服頂戴ニ而ニ

二月十二日

一古神服頂戴ニ而ニ
　但若役ニ而ニ
一御宮ニ而ニ御祓ニ而ニ
　本宮ニ而ニ御祓ニ而ニ
　後の本宮ニ而ニ御祓ニ而ニ
　後の本宮ニ而ニ御祓ニ而ニ
　後の本宮ニ而ニ御祓ニ而ニ

二月十三日

一古神服頂戴ニ而ニ

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録．第22冊』　請求記号 832-305
ガラス使用

於拝殿ニ集会ス而シテ各部ノ副
総代ハ氏子ノ人民ヲ会集シ来ル
氏掛 重気 崇敬 委員 寺嶋 成宗
氏幸 重気

一四日 御祝詞奉読ノ為メ於拝殿ニ
頂載ス 午前九時ヨリ参拝者 群集ス
但シ雨天ノ為メ延期ノ事 ニ決シ其旨ヲ
各町内ヘ通知セリ 尚ホ雨天ニ於テモ
参拝ヲ為ス者ハ随意タルヘキ事
一 不幸ニ付キ延期ノ事 ニ決シ其旨ヲ
各町内ヘ通知セリ 尚ホ雨天ニ於テモ
参拝ヲ為ス者ハ随意タルヘキ事
一 不幸ニ付キ延期ノ事 ニ決シ其旨ヲ
各町内ヘ通知セリ 尚ホ雨天ニ於テモ
参拝ヲ為ス者ハ随意タルヘキ事

一 五日 氏掛 重気 崇敬 委員 寺嶋 成宗
氏幸 重気 補佐 重気

一 六日 氏掛 重気 崇敬 委員 寺嶋 成宗
氏幸 重気 補佐 重気

一 七日 氏掛 重気 崇敬 委員 寺嶋 成宗
氏幸 重気 補佐 重気

一 八日 氏掛 重気 崇敬 委員 寺嶋 成宗
氏幸 重気 補佐 重気

一 九日 氏掛 重気 崇敬 委員 寺嶋 成宗
氏幸 重気 補佐 重気

一 十日 氏掛 重気 崇敬 委員 寺嶋 成宗
氏幸 重気 補佐 重気

一 十一日 氏掛 重気 崇敬 委員 寺嶋 成宗
氏幸 重気 補佐 重気

一 十二日 氏掛 重気 崇敬 委員 寺嶋 成宗
氏幸 重気 補佐 重気

一 十三日 氏掛 重気 崇敬 委員 寺嶋 成宗
氏幸 重気 補佐 重気

一 十四日 氏掛 重気 崇敬 委員 寺嶋 成宗
氏幸 重気 補佐 重気

一 十五日 氏掛 重気 崇敬 委員 寺嶋 成宗
氏幸 重気 補佐 重気

一 十六日 氏掛 重気 崇敬 委員 寺嶋 成宗
氏幸 重気 補佐 重気

一 十七日 氏掛 重気 崇敬 委員 寺嶋 成宗
氏幸 重気 補佐 重気

一 十八日 氏掛 重気 崇敬 委員 寺嶋 成宗
氏幸 重気 補佐 重気

一 十九日 氏掛 重気 崇敬 委員 寺嶋 成宗
氏幸 重気 補佐 重気

一 二十日 氏掛 重気 崇敬 委員 寺嶋 成宗
氏幸 重気 補佐 重気

一 二十一日 氏掛 重気 崇敬 委員 寺嶋 成宗
氏幸 重気 補佐 重気

一 二十二日 氏掛 重気 崇敬 委員 寺嶋 成宗
氏幸 重気 補佐 重気

一 二十三日 氏掛 重気 崇敬 委員 寺嶋 成宗
氏幸 重気 補佐 重気

一 二十四日 氏掛 重気 崇敬 委員 寺嶋 成宗
氏幸 重気 補佐 重気

一 二十五日 氏掛 重気 崇敬 委員 寺嶋 成宗
氏幸 重気 補佐 重気

一 二十六日 氏掛 重気 崇敬 委員 寺嶋 成宗
氏幸 重気 補佐 重気

一 二十七日 氏掛 重気 崇敬 委員 寺嶋 成宗
氏幸 重気 補佐 重気

一 二十八日 氏掛 重気 崇敬 委員 寺嶋 成宗
氏幸 重気 補佐 重気

一 二十九日 氏掛 重気 崇敬 委員 寺嶋 成宗
氏幸 重気 補佐 重気

一 三十日 氏掛 重気 崇敬 委員 寺嶋 成宗
氏幸 重気 補佐 重気

一 三十一日 氏掛 重気 崇敬 委員 寺嶋 成宗
氏幸 重気 補佐 重気

一 四月一日 氏掛 重気 崇敬 委員 寺嶋 成宗
氏幸 重気 補佐 重気

一 二日 氏掛 重気 崇敬 委員 寺嶋 成宗
氏幸 重気 補佐 重気

一 三日 氏掛 重気 崇敬 委員 寺嶋 成宗
氏幸 重気 補佐 重気

一 四日 氏掛 重気 崇敬 委員 寺嶋 成宗
氏幸 重気 補佐 重気

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録．第22冊』　請求記号 832-305

ガラス使用

祝言
岩船

七ヶ社祭礼ニ付而ハ従来御神輿渡
十三日御迎ニ参御神輿渡
御事ニ参候ニ付而ハ例年
参候ニ付而ハ例年
参候ニ付而ハ例年

林大和守重頼様本史ニ参
御代官ニ参ル時ハ御供
十九日 祖父ニ代参
忠公 角力ニ参ル
我家ニ初メ而参ル
本宮ニ参ル
一大田社名称ニ前ニ参ル
横手
大田社
本宮迄

右一冊冊後奥盛榮記
近江介成基之内〻入魂
借用而二日之内ニ写
写之者ヘ
千時天保五年午年八月
従四位上愛清

此一冊者愛清卿
ゟ之御
借用ゟ写
千時
安政五年午冬
経啓

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第22冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

天保五
卯造営御遷宮之記

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第22冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

七月十日雨朱之

一賀茂御造営掛官吏以下手中、社僧惟令老若
出席、小口之人拝之、先祭儀所、社家出勤之処納
之、落ち出席ニ而夜老若出席之上着両人自
明十日取納中ノ通之条但先例祭儀ハ年番ニ而
当秋ノ山年廻ニ付秋ノ祭ハ座張ノ四人
来集之事

十四日

一自今日迄二日間表、拔木等御座候事

十六日

一昨夜本社御燈籠之節、両度共當番之
外ニ一統之上ニ而も若役十年中、被
被仰付候事

十七日

一大工頭中井藤之助　板頭大表役
東照宮御造営ニ付　願之通
被仰付候事

一御造営中自社中借宅ニ而
西池嘉兵衛　若年寄被
岡本典膳　西池永兵衛
山本茶助　若年寄被
右之通被
新家

十九日

一今度御造営御終後も中當地ニ
奉行被仰付候事

一御造営中自社中借宅ニ而
西池嘉兵衛　若年寄被
岡本典膳　西池永兵衛
山本茶助　若年寄被
右之通被
新家

十九日

一今度御造営御終後も中當地ニ
奉行被仰付候事

一自今日迄二日間表、拔木等御座候事

十六日

一昨夜本社御燈籠之節、両度共當番之
外ニ一統之上ニ而も若役十年中、被
被仰付候事

十七日

一大工頭中井藤之助　板頭大表役
東照宮御造営ニ付　願之通
被仰付候事

一自社中借宅ニ而
西池嘉兵衛　若年寄被
岡本典膳　西池永兵衛
山本茶助　若年寄被
右之通被
新家

十九日

一今度御造営御終後も中當地ニ
奉行被仰付候事

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第22冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

勿論素於民ニ不法之挙動
之有申差出候迚之義ハ
一下濱於社地之儀ハ雖為
一社頭勤番輩格ニ而社用
之義ハ万端取斗候事
相勤之仁ニ而上番代ニ
一當番詰衆依病用ニ
日ニ衣冠着用ニ而事
一於社頭高声雑談ハ
衆ニ之障ニ成候ニ付
一喪方ニ而ハ両社御法度ニ
ニ而ハ不苦候事
一狭物并網等ハ
一諸役人博奕ハ
一喧嘩口論ハ
一夜ニ高声ニ雑談ハ

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第22冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

一鳥井前并玉垣寺家御用之事
一二季祭礼馬場先々注連之事
一酒殿橋ゟ末川筋、慶安寺裏
橋ゟ内掃除ゟ〻付之事
一火之用心大切ニ可仕事
右伝先例法ノ如く可仕候
一今度従貴殿後人中ゟ書之事
一御造営ニ付、棟札之事
一御守符之非業を不及申候
共、心得違ニ而後人を
午ノ七月
社中

右之通法式之事

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第22冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

一本庫ニ我木御届ニ出候処遅延ニ付
きつけなら受ら若役を
八月二日

廿六日

一御町奉行所ニて手揃ニて
ニ付若役を
一御町奉行所ニて手揃ニて
ニ付若役を
一御町奉行所ニて手揃ニて
ニ付若役を

十日

一十日晴清水御通行ニて

但御迭尓未た掛り不申候共 聖神寺儀ハ 御迭尓
中ニ而毎月初ニ参詣仕候人

御迭尓掛り候人

李年伊勢ニ詰ル方
飯室勘解由
下田宮平

添番ニ詰ル方
植木織部

寄宿割

掛ル松平伊勢守家
左ニ
中井図書
御勘定役
久保寺惠之丞
御勘定吟味役兼
中村傳三郎
御勘定吟味役
大矢七郎兵衛
御勘定役
鈴木善兵衛

無部屋掛ル家
三木重蔵
典膳重保家
安藤寺雪本家
掃部垣探ル跡家
卯之助重保家

仰勢之部之方
下向定事　仕候之儀ハ
之旨被仰
候事
楽人
安倍出雲掾
狛内蔵大属
今村主殿
平田修理

一神馬尾切髪事ハ年中恒例
之事ニ候間心安人ハ之事ニ
候共神事体ニ候

一公儀様ニ之儀ハ南小五六拾弓迄
外ニ乗出ス南ニ方ニ当ル仕候
一神事之上ニ楽ニ南少拾弓東
ニ而ニ候ハ入事ニ

十六日

一若狭守殿ニ而ニ御ニ
清家ニ而ニ
清栄ニ而ニ
清ニ

一先生ニ通ヲ以テ仮人ニ為ス事ヲ許サレ
恒例ニ依テ夜ニ入テ夜ニ入テ事ヲ終ヘ医師
ニ依テ要訣ヲ受ケ病室ニ入リ法人ニ告ケ
ノ為ニ要ヲ以テ力ヲ尽ス事ヲ代リ勤ム事保証ス

九月廿日

一元子踵踊必ス定主計寮ニ清奥、諸ヲ招迎ス
善言ヲ以テ当ル、引物ヲ自ラ晩夜ニ入テ
御手ニ召善言場ニ於テ当所ノ之ヲ献ス

仍法人ニ少ヲ仮ス燈改件ニ依リ猟獨ニ定ル
休所ニ於テ海共世ニ於テ依テ必ス定ル
ニ依テ於仏ニ享ケ家ヲ以テ衆ヲ一二ニシ
ニ於テ仏ニ依テ定ル別ニ
ニ於テ仏ニ依テ定ル別ニ

一番踵踊必ス猟ニ定ル二、主ニ於テ清共雄
二、仏ニ於テ翻ニ定ル踵踊四、鎖依ニ於テ
五、近ニ於テ基主計寮ニ於テ
一依テ人ニ於テ

一、越後介法橋　左馬之介季房　三馬　季長氏　左近　季康
久米長氏　太氏九　仙方之久　季更

一、遠江方番衆

一番　早野甲胡保　二、　丹後介法志
陸奥介保福　　伊勢介具幸

四、　加賀左近将監　五、　紀季守従五位下
出雲介氏鍛　　筑前守氏長　六、　日向介志賀
美作守容氏　　宮内少輔保法　九、　伊豆守氏近
紀季友保法　八、　主殿允重保
越中介氏従

十、　對馬守季前
主殿允重長氏

右之通従前々悪敷ニ付而人数石斛ハ申越ニ
及ハす

一、減金番衆

一番衆　駿河介氏眉　二、　土師介董季
伯耆介清綱　　美濃介格保

三、　三河守紀徳　四、　出羽介紀良
備後保是　　但馬介保行

五、　甲斐介重敬　六、　石見介保園
大蔵大夫保海　　土佐介紀建

七、　佐渡介氏逸　八、　毛大夫童正
下野守紀盛　　筑後介亜武

右之衆多ハ病休或ハ大普之一ケ月ニ何度ニ出来ル事ニ而
ハ無之候得共出来ル事ニ而ハ無之候間
此度ハ一ケ月ニ何度ニ

九番元　舟渡分預置
右勘定信弘

右之通十年割付渡候処
両人共存生ニ付
半減両冊書入之通
いつれも休所ニ付
引取候事

二ノ
一御渡中ニ社領当番之
先例ニ有之候社氏当代
ニ而者当代料受取
一御修復中火之用心ニ而
社中

右之書付沢若ニ
八月廿ノ

一来六ノ御祭礼掛り当地ニ
之先年ニ

又書類ニ而夜ニ入集ニ廻り候事

一先例ニ有之候社氏当代ニ候
ニ而者当代料受取
一御修復中火之用心ニ而
社中

右之書付沢若ニ
八月廿ノ

一来六ノ御祭礼掛り当地ニ
之先年ニ

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第22冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

弥宮参詣の事も相済み候事
一御名代として御参詣の事
一未船の節も報答の為御参詣の事
一年頭参詣の事
右之通御参詣の心得の事
尤先達ての御書付の通
午九月
社中

一朱雀宮 音俊宮 両宮参詣の事
若役弐名の事
一御造営中若役代り弐名の事
附 若役弐名掛り当地引請の事
一朱雀宮参詣掛り当地引請の事
附 若役弐名掛り当地引請の事
一当年供奉神饌の事
到着限り申刻迄

太敷神主ヲ端仗人等ヲ率テ詣儀所猶宣
告使唯今休所ニ来着ノ由ヲ使部ヲシテ儀如ク
休所ニ(市國志庁祥訳亭)ニ申時神主ヲ率テ出仕神人ハ神主別當於司
目代神主如木一人 金持宜尊持宜ヲ正祢宜已下白丁二人陰陽大夫雑色
壁入二鳥居神主樓門ノ軒下ニ着圓座ニ正祢宜以下着ス座
到ル到限宣告使ハ右大史紀行季ヲシテ宅務錦織行郷ニ使部等
ヲシテ向ハシム鳥居ニ于時陰陽大夫被使ノ身躰ヲ入二鳥居
着ク橋殿南次神主出自樓門ニ渡ス橋ニ着ク橋殿東南

對揖次ニ告使覧笥進ル使前次使相渡宣旨於
神主謹而拝覧ノ後返給ス神主前請捧覧
笥前行神主経樓門ニ入中門ニ於砂渡
神主備宣旨ヲ於神覧(兼テ設御机於大床供外陣
ニ後當番祠官役之)於土居
申祝詞ヲ畢テ撤宣旨渡於司ニ請取テ次神主
降自神前於中門内進使前ニ對揖使退下於廳屋
有郷食禄ノ儀(三献ニ雑次錦一ツ物)
行邦(五位)使部(二位)賜之(但於廳屋肝煎依差図
刀祢執酌ヲ)
太刀(依人竟五拾匹)馬代青銅(百匹)

次供外陣之夕神饌當番祠官役之次神主以下并
氏人於御籍屋拝見宣旨之外陣ゟ神饌
朝夕神主以下隨意ニ氏人ゟ頂戴早退散
附記 神主束帯正祢宜以下衣冠単隨意ニ各着用之陰陽
大夫ハ衣冠 新宮祢宜元頭代可清 氏神祝辰頭代雄
別當經興 祝司 賢清 目代 清村 着用浄衣指貫単之
一明五日社頭當番人并代勤ゟ輩ハ書記ゟ怪而
一冊従社中ニ差遣之ニ
一明五日當番祠官ゟ祓ニ已刻ゟ参向従社中ニ差遣之ニ

六日

一役人衆退ゟ引続キ社頭ニ於テ御供之祓
義ニ参ゟ一座神主ニ差遣之ニ
社家ゟ若役ゟ

八日

一朱十一日本造始ニ付テ本社ニ於テ御造
一本造始度ゟ陽ゟ

九日

御造營掛

表之位望平　大和守孝久　出羽守保定
大隅守數顯　備中守政必　近江守政紹
若狹守孝佚　相摸守敬直　備前守清筑
出雲守保守
大和守孝久　出羽守保定　若狹守孝佚
備前守清筑

御神宝方

肥後守重名　攝津守敬久　周防守政久
陸奥守元顯　日向守清直　土佐守顯方
常陸介孝德

御神服方

越後守敬平　長門守晶清　筑後守景直
豊前守若清　能登守元氏
助筆
出羽守保定　出雲守保守

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第22冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

肝煎方

大和守孝久　出羽守保定　備中守必顕

若狭守孝侯　伊勢守澄保　石見守謹直

佐渡守理益　備前守長顕　越中守理規

惣奉行

備後守清祈　筑前守具清　信濃守保暁

駿河守顕　遠江守清嗣　伊賀守邑顕

治部氏政

沙汰人　阿波守李金　石見守謹直　佐渡守理益

執筆　豊後守武顕

十日

木造始次第

一當刻限以前供本宮末社等外陣之神饌

本宮神饌當番祠官供之摂社神饌當番

氏人供之於小社者社務代供之

到刻限未刻前祠官各衣冠単随意各着之

神主着之　陰陽寮奏覆奏

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第22冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

作此奉行 讃岐清土狩衣掌ノ者 當 経興 祠官 賢清 同代 季箱
代 公清
浄衣指貫等
随意各着之 等 恭集于拝儀所 案内ノ度神人役之
正権禰宜 権祝 長五人各狩衣指貫
誓詞ノ度振座白衣指貫ノ帽子 権禰宜 鍛治等 参集門前 権禰宜 鍛治等
立烏帽子 次祠官以下 参向于社頭 神人先行十人 神主 別當 祠官 具代 榊持
敏平代敬平 新 祢宜 元貞代 河清 ノ外白木奉モ一合素襖両人 大工
氏神祝 辰顕代 顕雄 随従 釿具有之 大工
自鳥居入二鳥居経西箕子橋等入楼門自中門
着神前座 祢宜 権祝方東渡殿廊下 於作此奉行者着祝詞ノ座
軒下之座 東角西面 且 番匠以下列立于土師屋社邊迄之前運送

找木於祝詞之座之前 儀後二鳥居経西箕子橋入楼門自中門擔居于祝
詞ノ座前出納ノ系縄ノ人 抵于於找木 詞ノ座前人夫十二人白丁擔ノ自楼門到祝
路道ノ間 神人先行ノ警蹕 次作湯釜行清祓
籍座 悉幕仕切奉行普請奉行 横刕 次作湯釜 自番匠進出找木ノ前
儀式預儲載於找木前 東西中央ニ了 預撤ノ載 次正権禰梁當墨金於找木於儀式長
着圓座 但找木奉中央ニ 圓座三枚敷設 二拝ヲ執大麻ニ幸而行祓了立寄麻於
找木二拝ヲ起座着車載行祓 同于 儀了於中央行祓了讀祝詞
二拝退下ノ時青侍一人布衣進撤ノ前之大麻 奉ニ二本ヲ未ニ末
二拝退下ノ時青侍一人布衣進撤ノ前之大麻 奉ニ二本ヲ未ニ末 中央ニ三本ヲ上七本ノ 退了小

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第22冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

二人持畫尺墨汁等ヲ置テ我木ニ前ヲ退テ時正權棟梁
進我木ヨリ一揖シテ正棟梁取持墨金ヲ我木正中ヨリ時正權棟梁
棟梁同取持ニ進東木口次長一人進我木
當墨金於我木ニ木口ヲ了墨汁ニ糸口渡テ長ニ以糸口誡ニ
三度了渡權棟梁正棟梁相對ヲ去墨ヲ於中央了權棟
梁渡糸口於糸口長ニ請取ニヲ渡正棟梁於中央一揖ヲ
退次棟梁墨金等如初墨中央ヲ一揖ヲ退テ時長二人
進撤墨金等　次正大工釿始其儀先長一人持出釿

立様ニ我木ニ中央退テ時兩棟梁進テ我木ニ中央ヲ一揖
シテ相分テ左右ヲ候テ我木ニ木口持把於我木テ時正大工
進テ我木ニ前ヲ一揖シテ取釿ヲ二拜　有左右
ニ之木口釿二度シテ於中央三度ヲ二拜　左右
釿於我木ニ中央ヲ退テ時長一人進撤於釿　次
權大工釿始其儀一如先大工ニ儀次權
擔ヒ持出屋根材
同中央ニ拜ヲ退次兩鍛治進テ

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第22冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

屋棟梁等目禄拵祇
之ヲ賜禄ヲ受ル者出ヲ除ク
神社祢宜禰宜前阜廻浅沓出自唐戸請取之於唐戸前賜之正大之拝
受而退次賜禄於権大之其儀一如正大之儀祀時自
氏神社祝禄持出賜之前阜廻浅沓出終而前次供外陣之
夕神饌如朝次別当大夫作奉行差遣坤著廊
屋於此棟梁以下之賜禄別当作
祠官坤奉向之氏人於御籍屋神供直相勘査
等之儀了各退散但随意第七浄衣指貫束帯ニ而
到刻限出楼門自唐門往反作法ニ而

十二日

西廻廊人夫
役之

来集于社頭供外陣供夕神饌於御籍屋
諸司等着座後依例勅使着座後次撤机ヲ入置于楼門

十三日

一明十三日貴布祢社木造始之
一當日刻限前供本宮摂社等外陣之神饌
貴布祢社祢宜敦久参向供外陣之神饌
前日貴布祢社ヨリ清水谷左京亮ヲ
本迄始之宣旨申出當日祢宜敦久代孝久出頭
奉備神供之

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第22冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

到刻限（午刻前）祠官衣冠（束帯）陰陽寮（衣冠）
代清遠（狩衣）掌（作法）別当（浄衣指貫）隨意（衣冠）氏人等（衣冠）
向于社頭、（葉内二度神人役ス）二度ノ時ヲ以テ報（祠官）
（各手ニ榊ヲ持ツ）
且役番（正指大工（狩衣立烏帽子）長五人（浄衣指貫）
（持出雑色（銀造等ヲ白衣指貫ヲ烏帽子）
西廻廊（角未申）作物等ヲ著（敷設）（西面）依両儀（祠官）
作物等ヲ著（敷設）（西面）依両儀（祠官）
奉行善清ヲ以著小向（東面）
行清被次釿始ノ儀同（祠官）
（各手ニ釿ヲ持ツ）
次供外陣（神饌如朝）
於御籍屋（神供直会了）
ふせ（伏）ヲ（依晴）
宮廻（外）（祠官）
（西面）
（諸人）
一五番（六手ニ榊ヲ持ツ）
清大（大宮司保孝ヲ清大ト云）
次供外陣（神饌如朝當番祠官ヲ役ス祠官ヲ祠官ト云氏人
於御籍屋神供直會了各退散ス祠官ヲ祢宜ト云
ふせ（伏）ヲ（依晴）ヲ新宮社ヲ於ト云
宮廻（外）（祠官）廻廊ヲ（西面）隨意ヲ拝殿ヲ
（西面）諸人拝見（祠官）
一五番（六手ニ榊ヲ持ツ）
清大（大宮司保孝ヲ清大ト云）

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第22冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

異変之事 御達営ニ付手ヶ摂供家勅ニ仍テ兼
一物相撲ニ付テ番元志ニ人ニ付テ兼年ヨリ
七計迄右ニ供代諸雑用ニ付テ又来未年ヨリ
馬ニ而進ル而ニ而ニ而ニ

文氏敦之晩不幸養庶氏之儀
各迫教成候之
一永禄年成候 権殿神殿渡
之若役弱年
一番前将供年勤之儀去年御
氏敦養庶氏之儀去冬御評定
引続り被為
仰渡候通勤之儀必可

之出必可
之不参候出来候
之通可
雖然若役弱
一権殿後殿西御供権殿之間
後ノ方ノ新造立柱御上棟之上
摂社末社後殿悉被設権地
若役弱之儀ニ付
一権殿後殿西御供権殿之間被設権殿御仮御
後ノ方ノ新造立柱御上棟之上本宮之後殿ニ被用
摂社末社後殿悉被設権地

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第22冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

一権殿神寶渡御也當日自午刻五宮并轉供之民人
従一番衆到着重衆 兼篭之侍 各一人充
一刻限前備進本宮権殿并摂社外陣之神饌當番祠官社家
一刻限前假殿設忌子屋五宮之輩參向之事
一刻限前陽大夫被清於假殿神酒備進之事
一到刻限五宮并轉供之民人出仕于社頭五宮着着透
廊之座轉供者着西御供座
権殿西渡殿着座隨意參進着有直會於群居

次前自権殿至假殿白幕幔幕内白幕 外幔幕一重
敷設道布單但布者一幅之肝煎恕奉行役之
次預大夫渡鍛殿之御鍵祝
次預大夫渡権殿御鍵祝祝開権殿御戸了後座
次神主起座手水 呼大夫役之 手水早ク着補霞面手代衆
次禰宜権祢宜起座入権殿之内陣
次泰仕之祠官并轉供
各進候階上下 権殿大床 片岡祝 貴布祢祝
権殿階下級目 新宮祝 大田祝 假殿大床 貴布祢祝 新宮祢宜
假殿階二級目 若宮祢宜 奈良祢宜

権殿階五級目　奈良祝　阪田祝
二番衆河波今井氏神職　祝　轉供立着二人
三番衆伊織支保一　廊下前ニ人者立庭上　四番衆安房分氏飯
一番衆州俣寺　二番衆美濃寺　庚清
次巻御翠簾神主役之　次神寶渡御
是両供ニ撤之　御小幸櫃二合　次大幸櫃二合　小幸櫃二合　御太刀
御鉾一本　御弓　御矢　生絹即幣二棒　御靴子
御羽箒ヲツ　御幌　御壁代　右渡御　御霊盤二脚
先轉供ニ葦覆座　次神主祢宜権祢宜権祝出
内陣復座　次祝出内陣閉假殿ニ御戸復座

次月煎物奉行撤笹道布單等右外御濱床ニ祠官
一紆轉供悉納神寶蔵　次祝進権殿閉御戸
次権祢宜備進神酒　先本宮　後権殿　次岡社當番ニ氏人備進ニ　次
権殿外陣之御霊盤一脚假殿運送轉供之葦役ニ
但狛犬者渡御以前肝煎中被居置
次祠官先轉供等退下於直會所祠官轉供先隨意
恭請之葦等神酒直會

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第22冊』 請求記号 832-305
ガラス使用